

連日続く猛暑日！駅はポカリが飲み放題！！

駅と車両所で熱中症対策が何故違うの??

交検庫内の温度計は、8月に入り、連日35度を越えて室内であっても熱中症対策を怠れない状況になっています。会社は、新大阪駅や京都駅で熱中症対策として7月上旬から全社員がポカリスエットや水等を飲めるように、必要な量を一括購入しそれを各現場の冷蔵庫で冷やして自由に飲めるようにしています。

一方、交番車両所は「水分補給に努めましょう」「体調管理に気を付けてください」と熱中症に対する注意喚起は行ってきましたが、実際は冷水機を撤去してしまいました。また、不満の声を抑えようとあわてて8月3日以降、「塩熱サプリ」の配布を決定しました。この様に交番検査の熱中症対策はその場しのぎだといえます。

会社は、他労組の情報によると当初「一昨年より、熱中症対策の一環として『熱中飴』の配布を開始してきましたが、車両所・工場系統組合員については室内あるいは定点的作業を行っており、今年度は配布を行わない」ということでした。要するに会社の認識は「交番検査は室内作業であり、一定の定められた作業なので、給水を行いやすい環境にある」ということらしいです。

会社は現場のことを全くわかっていない！！

交番検査は、室内作業でも毎年、夏場には35度を越え、屋根上作業者は40度を越える中で作業を行っています。会社はこの現実にも目を向けていません。是非、認識を改めていただいて、その場しのぎの『塩熱サプリ』でなく、駅と同じようにポカリスエットや水が自由に飲めようにする等、十分な熱中症対策を行うべきです。

他にもある現場のなんじゃこれは！！

交番検査車両所の現場詰所の中で、D詰所は旧型エアコンで効き目が悪く不満が続出しています。他のA詰所～C詰所は、昨年新しいエアコンに取り替えました。会社は、昨年D詰所のエアコンも取り替えると言っていましたが、今年はまだ8月の中旬になります。夏は終わってしまいます。どうなっているのでしょうか？

会社は、現場の状況がわかっていますか？現場の社員は汗だくになって頑張っています。会社はこの努力に報いてください！！